

# Eastspring Asia Now

Vol.52 インド、モンスーン期の降雨量見通し

eastspring  
investments

## 今年のモンスーン期（6-9月）降雨量は平年並みとの予報

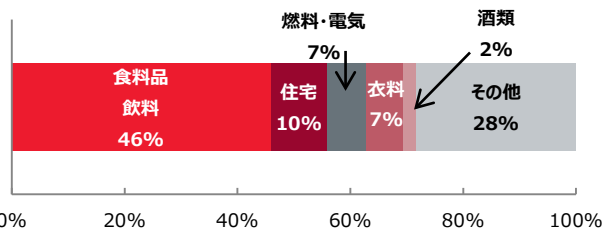
### 第1回公表の見通しは平年並み

- ▶ インド気象局（IMD）は4月15日、2019年6-9月のモンスーン期（雨季）の降雨量は“平年並み”（1951-2000年の過去50年間の長期平均に対して96%）になるとの予報を発表しました。インドではモンスーン期の降雨量が年間降雨量の70%以上を占めるため、農作物の収穫高を左右します。
- ▶ 最新のグローバル予報では、降雨量を減少させる要因と言われている太平洋で発生するエルニーニョ現象が弱く発達してきており、夏まで続く可能性があるとしています。ただし、IMDでは夏以降現象は弱まるとみえています。
- ▶ IMDは4月と6月の2回に分けてモンスーン期の降雨量見通しを発表しています。6月に発表される第2回の予報はより多くの注目が集まります。

### なぜモンスーン期の降雨量が注目されるのか

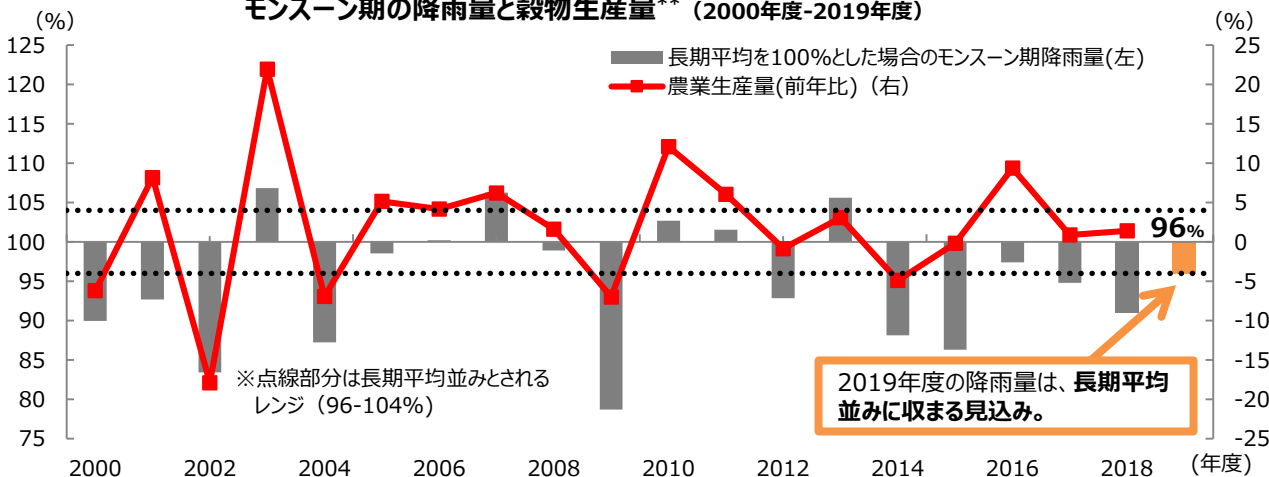
- ▶ インドではモンスーン期の降雨量が平年を大きく下回ると、農作物の干ばつ被害により景気の下振れリスクが高まります。
- ▶ また、農作物価格の変動は、消費者物価指数（CPI）全体への影響が大きいため、降雨量は金融市場でも注目されています。降雨量が多く農作物の豊作が見込まれる場合、農作物価格の下落を通じてインフレ率の緩和をもたらします。
- ▶ インドの全雇用者のうち、約40%\*が農業に従事しています。農作物の収穫高が増えて農家の収入が増えると、地方での消費の拡大につながることも期待されます。

インドの消費者物価指数（CPI）構成比（2012年基準）



\*世界銀行のデータを使用。

モンスーン期の降雨量と穀物生産量\*\*（2000年度-2019年度）



出所：Bloomberg L.P.、インド統計局のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

\*\*2015年度以降の穀物生産量は、Department of Agriculture and Cooperationのデータを使用。

※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。※また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。※また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。\*2018年、アジア・インベスター・アセット・マネジメント・アワード（アジアインベスター誌選出、2017年度対象）をイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）リミテッドが受賞。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会



アジア・ファンド・ハウス・オブ・ザ・イヤー受賞\*  
イーストスプリング、アジアにおける最優秀運用会社に！3度目の受賞

190418 (02)